

プロローグ

はじまりはヘルマンハープとの出会いから

私がヘルマンハープに出会ったのは2003年のことです。当時私は、夫の転勤でオーストリアのウィーンに住んでいましたが、偶然にも、日本人として初めてヘルマンハープに出会うことになりました。

ヘルマンハープは1987年に、ドイツ、バイエルン州の農場主ヘルマン・フェーさんがご自身のダウン症の息子、アンドレアスのために考案、開発した弦楽器です。歌が大好きなのに、発語がうまくできないアンドレアスさんに、ヘルマンさんはメロディーを弾くことのできる楽器を与えてあげたかったのです。音符が読めない方でも、ヘルマンハープ専用の楽譜を使うので、すぐにいろいろな曲を弾くことができました。ヘルマンハープは弾いている人自身が心を奪われるほどきれいな音で、私がこれまで聴いたことのない透明なゆったりした音色でした。

バリアフリーな楽器でありながら、これほど本格的な楽器はみなさんもきつとご覧になったことがないと思います。ヘルマンさんは「障がいがあるからと言って、息子のアンドレアスにおもちゃのような楽器を与えるわけにはいかない。障がいのある息子には自尊心を与えなければならぬ」という思いでアンド

レアスさんに与える本物の楽器を開発しました。

ヘルマンハーブに出会った当時、私は43歳でしたが、ヘルマンさんとそのご家族に出会ったことで、「お母さん」として歩んできた自分の人生が一変しました。「ヘルマンハーブを日本で一流のブランドに育てて、知的障がいのある息子のためにヘルマンハーブを開発したヘルマン・フェーさんの名前を世界に残したい」という思いが芽生える出来事があったのです。

それは、ドイツの教会で初めてヘルマンハーブのコンサートを聴いたときのことです。音楽経験や年齢ハンディーのあるなしにかかわらず、男性も女性もみんな一緒にヘルマンハーブを弾いていました。奏でる人々の姿は、まるで人生に新たな輝き得たかのように自信に満ちあふれていました。私は一目で、ヘルマンハーブが演奏している人々の人生を変えた楽器なのだと思えました。人が自分の人生を決めていく



のは、やはり「感動を得たとき」なのかもしれません。目の前で演奏していた人々もまた、ヘルマンハープの誰かが弾けるやさしい仕組みと、たぐいまれなる音の美しさに大きな感動を覚えたのでしょうか。

私は、ヘルマンさんがダウン症のある息子のためにヘルマンハープを生み出したという、ヘルマンハープ発祥の物語にとっても感動していました。そして、その透明な美しい音に触れたとき、さらにその感動は大きくなりました。

2004年、私は日本に帰国しました。ヘルマンハープの開発者ご一家からの信任を得て、まだ誰もヘルマンハープを知らない日本での普及をスタートすることになります。自宅の8畳間を事務所にして、「ヘルマンハープ」という商号で事業所を登記しました。ヘルマンハープを背負って歩き回り、施設を訪ねては紹介し、ヘルマンハープが広がる道を探しました。

そして、知的障がいのある青年期の子どもたちにヘルマンハープを教える一方で、「ヘルマンハープを弾きたい！」という声のあがったシニアの女性たちの中に広く普及させていきました。

ヘルマンハープは1人でも練習できる楽器ではありませんが、楽器である以上、ヘルマンハープを習える教室が必要でした。そこで、年間延べ3000人にヘルマンハープを教えながら、ドイツにも存在しなかったヘルマンハープの奏法や教授法を自ら開発することになりました。やがて、私が指導するインストラク

ターの教室は全国約150カ所に広がり、施設や行政、同好会などの自主活動もさかんになってきました。日本でのヘルマンハープの普及がある段階にきたとき、私は「ヘルマンハープは奏法を有する楽器なのか？」また、「ヘルマンハープはソロ演奏で聴かせることが可能な楽器なのか？」といった、人々のヘルマンハープの可能性についての疑問に答えなければならなくなり、ヘルマンハープの奏法の開発やソロ演奏に取り組むことになったのです。

2010年ごろから私は、ドイツで開催されるヘルマン・フェーさんの主催コンサートにも招かれ、これまで誰も試みなかったヘルマンハープの本格的なソロ演奏をドイツの人々に披露してきました。また、ドイツの音楽学校から招かれ、ドイツの指導者に奏法の講義もしてきました。

2014年、私が54歳になったときには、世界で初めてのヘルマンハープのソロリサイタルを東京、大阪、福岡で開催しました。このソロコンサートによって、1500名の来場者は、ヘルマンハープはただ音符をたどってはじけば弾ける楽器というだけではなく、奏法を用いることで豊かな音楽表現が可能で、本格的なソロ演奏のステージも果たせる楽器であることを知ってもらうことができました。ヘルマンハープは決しておもちやのような楽器ではなく、生涯学ぶ内容のある本物の楽器であることが大勢の人に知られることになりました。

私がヘルマンハープに出会ってから15年が経ちました。今やヘルマンハープを弾く人は全国で4500人にのぼり、これまで音楽や楽器と縁のなかった人も、自分で音楽を奏するという生きがいを見つけて人生を輝かせています。ヘルマンハープを伝え、普及をしていく中で、私はこれまでたくさんの人と出会いましたが、ヘルマンハープを弾く人の数だけこの楽器に向き合うさまざまな人の思いがあり、ヘルマンハープはそれに応える多様性を持っていると感じています。

介護の日々の中で、年離れた親とヘルマンハープを弾く楽しみを見出した人。

誰かの役に立ちたいとヘルマンハープを背負ってボランティア活動に行く人。

教室で仲間と学びながら、ステージを夢見て日々演奏の腕を磨く人。

ヘルマンハープの出前演奏を頼まれて、施設や学校に足を運ぶ人。

ヘルマンハープの生の美しい音を、お昼寝前の園児に聴かせている幼稚園の先生。

ドキドキするほどきれいな音色に背中を押されるのでしょうか、多くの方が人前で音楽を演奏したことがなくても、自然にヘルマンハープで社会活動を始めているのです。そして、ヘルマンハープを囲むこうした活動は、これまでなかった新たなコミュニティ作りにいつも一役買っています。

また、ご自宅で、自分のペースでヘルマンハープを楽しんでいる方もたくさんおられます。指先を使いながら楽譜を目で追うので、ヘルマンハープを「脳トレ」の目的で日課として弾いておられる人も多くありました。あるいはまた、若々しさを保つための「美活」と称して、ヘルマンハープの美しい音を生活の中に取り込んでいる人もいます。夜でも弾けるやさしい音量なので、眠る前のリラックスタイムに弾くことを習慣にしている人や、「ヘルマンハープで夫婦の会話を増やすことに成功した」という声を聴くこともあります。

ヘルマンハープは、一音はじいただけでも音の美しさに驚く楽器で、弾く人の自尊心を保ち、さらに高めています。初めて弦をはじいた人から、その人の見たこともなかった笑顔がこぼれる瞬間、私は、人の人生を変えるほどのヘルマンハープの音の力を目の当たりにしたように感じます。

そして私自身の人生も、そのヘルマンハープの音の力、そして現代に奇跡のように存在していたヘルマンハープ誕生の物語への感動によって変わりました。

子育てを終えようとするとき、私はヘルマンハープ育てを始めましたが、言い換えると、「信じられる何か」をまた育てたくなったのかもしれない。

QRコードでヘルマンハープの音を動画で聴きながら、私とヘルマンハープがたどった道のりをお読み
いただけたらと思います。

ヘルマンハープはこのようなドイツの歌を弾くために生まれました

